

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703576		
法人名	有限会社 サンコー		
事業所名	グリーンリーフ 星ヶ丘 (菜の花ユニット)		
所在地	〒807-1264 福岡県北九州市八幡西区星ヶ丘6丁目1-37 093-618-7726		
自己評価作成日	平成24年09月15日	評価結果確定日	平成24年11月01日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、四季折々の行事やレクリエーションを計画実施し、入居者、ご家族に楽しんで頂いたり、毎月の「星ヶ丘便り」でグループホームの近況をお知らせしている。 ・提携医療機関との連携による24時間対応、定期的訪問診療、病院OTやPTによるホーム内でのリハビリ実施等、入居者の高齢化に伴い日々の健康管理、体調管理に努めている。また、栄養士作成の献立を基に入居者の体調、嚥下状態に応じ飲食物の形態に配慮している。 ・居室にはトイレ、洗面台を完備し、個人のプライバシーに配慮している。 ・職員が研修に参加したり、希望の休みが取れるよう、勤務シフトを柔軟に作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年10月19日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の主体性を大切に理念に沿った支援を行い、地域との交流を図っている。また、開設7年目に入り、皆で今の形に合った新しい理念を考えている最中である。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の事業所や自治会からイベントの案内を受けたり、利用者の居住地から民生委員や友人が来訪されたり、入居後も継続的な交流が行われている。フラダンス、クラリネット、三味線等のボランティアの方々が来られ交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やスタッフ会議等で、地域の高齢者事情について話したり、地域貢献について話す機会を設けたり、ホーム行事への参加を案内する等して取組みに努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、自治会役員、司法書士、高齢者福祉施設関係者、家族等の参加により2ヶ月毎に開催し、意見交換を行っている。その後、スタッフ会議等で報告し運営に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員から新規施設開所の情報提供を受けたり、ホームの実情を報告したり等、待機者への処遇に対応している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解し身体拘束をしないケアを実践しています。また、定期的に勉強会等で確認合っています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等を受講したり、スタッフ会議等で話し合ったりしています。常に意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の必須研修とし、外部研修に順次参加、毎月のスタッフ会議で報告、資料を閲覧し、全職員が理解できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は、時間をかけ納得できるまで説明し、質問に応じている。 入居中に経済的負担が、困難になった時は、他の施設を紹介している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等のご意見・ご要望は、その都度、即座に対応しています。 日常的には特に食事の形態等。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で意見・提案を聞いて頂いています。会議に出席できない者は、意見・提案ノートがあり、それに記入し会議で話し合っています。また、必要に応じて随時意見を聞いて頂いています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行ったり、休みの希望を聴いたり、就業規則を見直したり、賃金改定を行ったりし働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の働く意欲を尊重し、年齢、性別に関係なく人物本位で採用し、本人の休暇希望日に合わせた勤務表を作成している。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会に参加している。利用者に対する言動については、常に畏敬の念をもって接するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を与えて頂き、日常的に施設内で介護技術のトレーニングをしています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や実践報告会に参加し、困難事例のアドバイスを頂いたりサービスの質の向上に取り組んでいる。横の繋がりが充実してきた。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努めたり、また入居前には、必ず御本人にホームへ来て雰囲気を感じてもらって頂き、安心してもらう様にしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のホーム見学時より、困っていることや不安なこと、ホームに対する要望などを傾聴し、信頼関係の構築に努めている。家族とは何回も面談を実施している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や体験入居等を通じて、必要としている支援を把握し、適切なサービス利用に繋げている。他のサービス事業所の案内や紹介も行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備(おしぼり巻き、お盆拭き)、洗濯物をたたんで頂く等、個々の状態に応じて行って頂いています。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣類や寝具等、季節の変わり目に連絡し本人と一緒に交換して頂いたり、面会等においては、ゆっくりと落ち着いてお話しが出来るよう居室やホールを利用して頂いています。また、散歩等も危なくない様、ご家族と相談しながら行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたお友達等、ゆっくりと過ごして頂ける様、配慮しています。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をたたんだりする時等、出来ない方の分も手伝い協力し支えあっています。レクリエーションにおいても(ボール遊び、工作等)全員が笑顔で参加できる様に努めています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の承諾を得て、退去先の施設や病院を訪問したり、お手紙を出したりして関係性を継続させ、本人や家族、退去先職員等の支援、相談に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話しを傾聴し、その時々思いや意向を尊重しケアを行っています。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はご本人やご家族等から生活歴や生活習慣等の情報を入手し、入居後は、日々の関わり中で、お声かけをし把握に努めている。職員間で情報を共有・提供し合っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケア記録、職員間の情報共有により把握に努めています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を提供し合い、計画を立てています。変化があれば、その都度ユニット間で話し合いを行いケアプランの見直しを図っている。毎月、目標に対する評価を現場スタッフが実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとの日々の記録により、情報を共有し、ケアプランの見直しや評価の実施に活用している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の変化、要望に応じて医療機関受診を支援し、提携医療機関の協力によりPT、OTが個別リハ、集団リハを行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域における入居者の生活支援のため地域包括を始め、市民センター、自治会、消防、警察、防災協会等々と連携に努めている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で協力医療機関と連携し、入居者が安心して医療サービスを受けられるよう支援している。入居前からのかかりつけ医で受診出来るようご家族と協力し支援している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、入居者の日々の健康管理や状態変化に応じた支援をし病院受診につなげている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活状況が分かるよう情報を提供している。また、日頃より重症化の対応について家族と相談し、家族の意向、要望、思いを医療関係者に伝えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りの方針については説明し、理解して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は定期的を実施している。実践力については、経験浅い職員もあり、基礎から応用、また色々な場面を想定した訓練内容を実施している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に避難・消火・通報訓練を実施している。地域との協力体制を敷いている。非常用備品をチェック、見直しを図っている		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族より過去の人生をお聞きし、声かけに配慮している。居室にトイレ、洗面台を完備し個人のプライバシーや羞恥心に配慮している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人の行動を観察し、思いが言葉として出てくるまで傾聴、または行動に同行し支援しています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビ観賞が好きな方、歌が好きな方、折り紙など手仕事が好きな方等々、お一人ずつに合わせ支援している。体調・健康状態の合わせて離床・休憩して頂いています。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは季節ごとにご家族へ協力を依頼。朝や入浴後は、化粧水やアイブローを使って頂き、女性としての身だしなみを忘れないように声かけ、ケアを行っています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下拵え、食前のおしぼりの準備、食後のお盆拭きなど、手伝って頂いています。入居者の方からも、手伝いましょうかと声をかけて下さることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食べて頂けるよう見守り、声かけをしている。状態に合わせてキザミやミキサー食で対応している。水分量は摂取表を活用しながら、少ない方には好みの飲み物を提供しています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人ずつ口腔ケアセットを用意し、その方に合わせてケアを行っています。自分で出来る方は見守り、介助を要する方は、義歯・口腔内(歯、舌)のケアを行っています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人のパターンに合わせて声かけ、誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄の支援を行っています。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分摂取して頂けるよう声かけし、またレクリエーションでも楽しく運動できるよう工夫して便秘予防に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方には、日を改めたり、時間を調整したり、別ユニットのお風呂に入ってもらったり、また気の合った者同士で入ってもらったりしている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人のその日の体調に応じて、日中ベッドで休んでもらったり、夜間早めに就寝して頂いている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書にて効能を確認したり、誤薬を防ぐためにチェック表を使用し服薬支援をしている。薬の変更があった場合は、状態の観察に努め、看護師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の得意な方には、台所周りの簡単なお手伝いを依頼し達成感を感じて頂いている。お茶の時間には、それぞれの嗜好に合わせ、コーヒーや紅茶、緑茶でつろいで頂いている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、歩行の安定された方々で近所の公園に散歩に出かけています。近くの大型ショッピングセンターには車イスの方も出かけられ、買物や食事を楽しんでいます。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望により必要に応じて、買物に付き添うなどしています。本人が買物をする事により社会との関わりが保てている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、電話をかける事や手紙を出す事など支援しています。電話をかけるときは、コードレス機を使って頂き、プライバシーに配慮している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である食堂には、季節に合わせた入居者の手作りの作品を飾ったり、浴室・トイレは気持ちよく使用出来るよう清潔保持に努めている。通風孔の開閉やアロマにより、換気や消臭に気を付けている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である食堂などでは、気のあった人と会話できるよう入居者同士の関係性を考慮して席を決めている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやソファなど使い慣れた家具を置き、個人の家として過ごせるよう配慮している。また、本人の希望に合わせて模様替えをして好みに合わせています。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合った事をして頂いています。(床拭き、ワゴン押し、おしぼり干しなど)それらを安全に行えるよう常に見守りや付添いなどをして環境作りをしている。		